スタッフインタビュー

かんごスタッフ Vol.20

今回は ４ 月からブランチェスグループに仲間入りしたグループホームありすの家の管理者 山口真紀さんにお話を伺いました。

グループホーム
ありすの家
管理者
山口 真紀 さん



福祉の仕事との出会いとやりがい

中川内（以降、中）：福祉の仕事を始められたきっかけは何だったんですか？
山口（以降、山）：飲食関係の仕事をしていましたが、知り合いから資格を取ってみたら？と声をかけられたのが始まりです。勉強が楽しくて学校に通いだし、実習先で「この仕事だ！」と感じました。せっかくならハードルが高そうなところから経験しておこうと、重度身体障がい者施設での勤務を選んだんです。
中：実際に働かれていかがでしたか？
山：毎日が緊張感でいっぱいの、少しの油断で重症化してしまう方たちですが、利用者さんの笑顔や楽しそうな反応が見られたときは、大きなやりがいを実感しました。人生観が変わるほど、自分を見直すきっかけになった仕事です。この時の経験が、現在のグループホームの仕事につながっています。

工夫と温もりに満ちた職場づくり

中：各お部屋のドアに掛けられた花のリースなど、随所に手作りの飾り付けがされて素敵ですよね。
山：手芸や工作が好きなので、ハロウィンなどの飾り付けも自分で作っています。手作りのあたたかみが出て、和やかな空気になるかと思って（笑）。
中：スタッフ同士の雰囲気もとても良さそうですね。
山：ミーティングでの提案や同僚への気遣いから、スタッフの成長を感じる瞬間がたくさんあります。利用者さんやご家族も安心して過ごせる、みんなが幸せを感じられる環境をこれからも大切にしていきたいです。





ハロウィンの可愛らしい飾り付けに、利用者さんたちのテンションもJ✨ドア前のリースはお部屋ごとに色を変えて、認識しやすい工夫がされているそう

プライベートでも発揮される「役に立ちたい！」精神

中：プライベートでも、町内の自治会役員をされるなど、お忙しい毎日だとか。
山：そうなんです。独居高齢者の孤独死を防ぎたいという想いから、会長さんたちとアイデアを出し合って活動しています。結局、誰かの役に立つことが好きなんだと思います。公私共にずっと人のお世話ばかりで忙しく、我が家の子どもたちは寂しかったと思います。
中：その二人のお子さんたちも、イベントのお手伝いをしてくれるそうですね。
山：それぞれ中学生・高校生になりますが、喜んで手伝ってくれるし、私の仕事にも理解を示してくれる可愛い子どもたちです（笑）。
今の仕事と出会って、この会社で働く毎日は本当にワクワクが止まりません！
これからも更にいろんな経験をして、たくさんの人との出会いを大切にしていきたいです。



利用者さんたちとも女子トークが弾む、すっかり顔馴染みの娘さん♪時には、お友だちも誘ってお手伝いしてくれる

自身が人の助けになることに、心から幸せとやりがいを感じるという山口さんのあたたかい人となりが伝わってくるインタビューでした。

◎インタビュアー：中川内